

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

肝細胞癌に対するラジオ波凝固療法、化学療法、分子標的薬の経験(抗腫瘍効果や有害事象の検討)に関する探索的観察

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科

氏名:本田 真之

<研究期間>

承認日 ~ 2030年12月31日

<研究の目的と意義>

肝細胞癌の患者さんの治療についてラジオ波凝固療法、化学療法、分子標的薬など様々な治療が開発されてきています。肝癌ガイドラインに沿って治療した患者さんの経過や合併症について再度検討します。また進行癌の薬物治療として、本邦では2009年にソラフェニブが保険適応になり長く一次治療として用いられてきました。REFLECT試験にてソラフェニブに対する非劣勢が証明され、2018年3月よりレンバチニブが一次治療に追加されました。これら分子標的薬について、抗腫瘍効果や副作用等を検討します。他に、分子標的薬と併用して従来の肝動脈塞栓療法、ラジオ波凝固療法、放射線療法を併用することにより治療の効果がどのように改善しているかをもう一度検証します。

<利用する試料・情報の項目>

これまでに施行したCTないしMRI、血管造影などで画像診断および内視鏡所見。

生化学(ALT、アルブミン値)、血液検査(血小板)、腫瘍マーカー、アンモニア等採血による血液検査。

<対象となる患者さん>

2008年5月から2030年12月までに日本大学医学部附属板橋病院消化器・肝臓内科にて肝腫瘍と診断された患者様です。

<研究の方法>

主に血液検査、CTないしMRI、血管造影、内視鏡所見について治療効果、有害事象、などを今までのカルテにて調査検討します。

<外部への試料・情報の提供等>

有りません

<研究組織>

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

消化器肝臓内科

氏名:本田真之

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2424

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)